

アルゼンチン共和国ティグレ市の 2030年ビジョン共創プロジェクト

鎌田 麻以子 原田 高志 山岡 和彦 長田 純一 Osvaldo Kawakita

要旨

中央研究所C&Cイノベーション推進本部は、顧客価値と技術を結び付け、NECの新規技術開発や事業創出を推進しています。アルゼンチン共和国のティグレ市とともに、同市における2030年のビジョンを作成しました。本ビジョンは、2030年の同市が市民や社会に提供する価値を描いたものです。



社会価値の共創／バックキャストイング／ワークショップ／まちづくり／ラテンアメリカ

1. まえがき

お客様と価値を共創するためには、お客様自身の未来や課題をともに考え、ともに問題解決をしながら価値を創っていく必要があります。中央研究所C&Cイノベーション推進本部は、アルゼンチン共和国のティグレ市と「ティグレ市ビジョン2030」を共創しました。本ビジョンは、2030年の同市が市民や社会に提供する価値を描いたものです。

本プロジェクトでは、同市が社会や市民に提供する体験と価値の「あるべき姿」を描き、そこからのバックキャストイングによる課題抽出、ビジョンを実現するための計画作成、NECによるソリューション提案を行いました。更に、将来的な課題解決へ向けての研究テーマの探索を行っています。

本稿では、ティグレ市に共感していただけるビジョンを作成するために行った、市役所職員へのヒアリングやワークショップといった共創活動のプロセスと成果について紹介します。

2. ティグレ市の紹介

ティグレ市は、南米アルゼンチン共和国にある人口40万人ほどの町です。アルゼンチンの首都・ブエノスアイレス市から北約30kmに位置しています(図1)。この町は、ルハン



図1 ティグレ市の位置

川を挟みデルタ地区とコンチネンタル地区という2つの地区に分けられます(図2)。この2つの地区は、まったく異なる特徴と魅力を備えています。デルタ地区はパラナ川の広大な

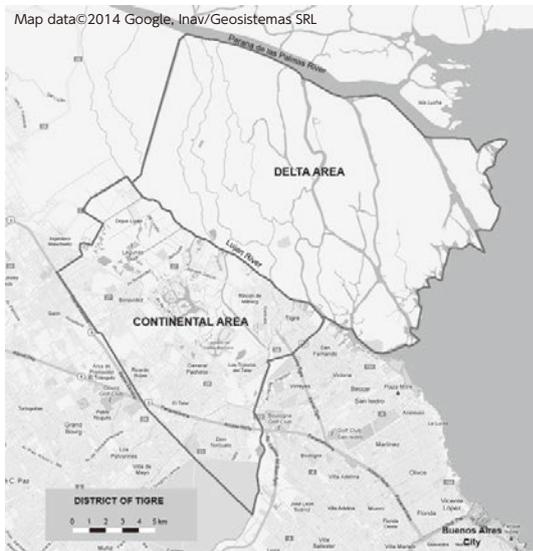


図2 ティグレ市の地図

デルタの一部で、多種多様な動植物が生息する湿地帯です。一方のコンチネンタル側は市民の生活の中心地です。

市は、今後の人口増加に伴い、デルタ地区の自然環境の保護、市民一人ひとりへの公共サービスの拡充、町全体の治安の維持といった大きな課題に、より積極的に取り組んでいく必要があると考えています。このような変化を見据えたうえで、ティグレ市は魅力的な町を創ろうとしています。

3. ビジョン作成のプロセス

ティグレ市とビジョン共創するために、多様なバックグラウンドと知識・経験を持つメンバーが本プロジェクトに参加しました。デザイン思考でのビジョン構想を得意とするデザイナーや、アイデアを可視化できるイラストレーター、2年間のラテンアメリカ滞在から帰国したばかりの研究者などが集められました。

ビジョン作成は、①現地視察、②市役所職員へのヒアリング、③ビジョンの素案作成、④ブラッシュアップのためのワークショップ、という4段階で進められました。各プロセスについて詳細を説明します。

3.1 現地視察

ティグレ市のビジョン作りには、同市の市民になりきり、市民の想いに共感することが不可欠です。そこで、2013年2月、我々はティグレ市を実際に訪問し、現地を視察しました。市



写真1 ティグレ大学センター（左）、水上バス（右）

役所や教育施設、医療施設などの公共施設を見学したり、鉄道や水上バスなどの交通機関を利用したりしてみました(写真1)。この視察では、デルタの自然の豊かさや市民のゆったりとした生き方といった同市の魅力とともに、地域格差や交通の不便さなどの課題も肌で感じることができました。

3.2 市役所職員へのヒアリング

現地の視察後、市役所職員を対象に、彼らが思い描くティグレ市の未来像や現在認識している課題をヒアリングしました。その結果、デルタの環境保護や新興住宅地開発と交通網の整備の両立、コンチネンタル地区とデルタ地区のさまざまな格差の縮小が共通の関心事項であることが分かりました。そして何より、出席者一人ひとりがティグレ市について真剣に語る様子から、彼らの問題意識の高さとよりよいまちづくりへの情熱を感じることができました。

3.3 素案作り

いったん日本に帰国した我々は、ティグレ市での視察とヒアリングの結果、そして2030年のグローバルトレンド¹⁾から、ビジョンの素案を作成しました。ヒアリングの結果から、市役所職員の描く未来像は、自然環境、交通、ソーシャル・キャピタルという3つの大きな観点に分類できることが分かりました。そこで、この3つの観点を起点にしてアイデアを膨らませ、更にこれらのアイデアをつなぎ合わせて連続的な1つのストーリーを作成しました。このストーリーでは、旅行記風の文章とイラストを用いて、デルタの自然の豊かさと、快適な交通システムや公共サービスを誰もが平等に享受している様子を表現しました(図3)。

3.4 ブラッシュアップのためのワークショップ

我々は2013年5月に再度ティグレ市を訪問し、素案ブラッシュアップのためのワークショップを実施しました。このワー

クショップでは、ラテンアメリカ滞在経験メンバーによるスペイン語ファシリテーションの下、市役所の環境課、経済・管理課、計画課、観光課、技術部門などからの参加者10名



図3 ビジョン素案のイラストの例



写真2 ワークショップの様子



写真3 ワークショップ参加メンバーの集合写真

が活発に意見を出し合いました(写真2、写真3)。ワークショップでは、2030年に実現していきたい具体的な体験の内容やビジョン実現の障害となりうる顕在的・潜在的課題、そしてティグレ市のビジョン実現を促進する資産・資源・財産についてアイデアを出しました。このなかから、ティグレ市の最大の財産は、ティグレ市民が自分の町を誇る気持ちであることにプロジェクトメンバーたちは気が付きました。

4. ティグレ2030年ビジョン

このようなプロセスを経て、完成させた2030年のティグレ市ビジョンをコンセプト・ブックにまとめました。表紙には、ティグレの最大の財産である「ティグレの誇り(スペイン語では“Orgullo de Tigre”）」という文字をデザインとして取り入れました。内容としては、前半のプロローグは、2030年にティグレ市を訪れた日本人学生の旅行記を通じて、2030年のティグレ市を表現しました。後半は、2030年のティグレ・ビジョンを実現するためのアクション・プランを示しています。そのなかでは、ヘルスケアや安心・安全関連のソリューションなどNECが貢献できるような社会ソリューションも紹介しました。

5. まとめ

本プロジェクトでは、ティグレ市とともに、2030年のティグレ市のビジョンを共創しました。ビジョンでは、同市が社会や市民に提供する価値を描いています。ビジョン作成のプロセスにティグレ市職員に参加していただいたことに加え、プロジェクトメンバー全員がティグレ市民の気持ちや想い、そして夢に共感したことで、ティグレ市に共感していただけるビジョンを作成することができました。

今後も我々は顧客価値共創に向けて、提案したソリューションを実現するための技術を検討したり、事業化を促進するための活動をしていきます。

参考文献

- 1) 米国家情報会議(編): 2030年世界はこう変わる: アメリカ情報機関が分析した「17年後の未来」, 講談社, 2013.

執筆者プロフィール

鎌田 麻以子

C&C イノベーション推進本部

原田 高志

C&C イノベーション推進本部
イノベーション・プロデューサー

山岡 和彦

NEC デザイン&プロモーション
デザイン事業本部
ソリューションデザイン部
クリエイティブマネージャー

長田 純一

NEC デザイン&プロモーション
デザイン事業本部
ソリューションデザイン部
チーフデザイナー

Oswaldo Kawakita

NEC Argentina
Manager

関連 URL

ティグレ市ウェブサイト（スペイン語）

<http://www.tigre.gov.ar/>

NEC 技報のご案内

NEC 技報の論文をご覧くださいありがとうございます。
ご興味がありましたら、関連する他の論文もご覧ください。

NEC技報WEBサイトはこちら

NEC技報(日本語)

NEC Technical Journal(英語)

Vol.66 No.3 社会価値の創造に貢献するソーシャルバリューデザイン特集

社会価値の創造に貢献するソーシャルバリューデザイン特集によせて
NECグループにおけるソーシャルバリューデザインの取り組み
特別寄稿：イノベーションを生み出すデザイン思考と社会環境を考慮した人間中心設計

◆ 特集論文

ソーシャルバリューデザインを実現するための技術・手法・プロセス

イノベーションを創出するソーシャルバリューデザイン
社会ソリューションの開発に向けたコラボレーティブUXデザイン手法
よりよいユーザー体験の実現に向けた開発者のための支援方式
大規模システム開発向けのUX向上フレームワーク
アジャイル開発を活用した人間中心設計実践

ソーシャルエクスペリエンス事例

アルゼンチン共和国ティグレ市の2030年ビジョン共創プロジェクト
社会・環境の改善を目指す節電行動促進システム
高齢社会のコミュニティづくりに向けた質的調査と実証実験
デザイン思考を用いたクラウドサービス基盤「Smart Mobile Cloud (SMC)」の企画・開発
社会インフラとしてのコンビニATMの取り組み
通信ネットワークの確実かつ効率的な運用に向けたUI標準化活動
安全・安心かつ効率的な航空管制業務に向けたHI設計ガイドラインの開発
ヒューマンエラー低減のための配色評価方式の開発と適用

ユーザーエクスペリエンス事例

スマートデバイスアプリケーション開発における人間中心設計活動
人間中心設計による量販店向けPOSシステム「DCMSTORE-POS」の開発
産業機械における人間中心設計の適用
使いやすいサービスステーション向けセルフ注文機のUI開発
ソーシャルバリューデザインを適用したビジネス多機能電話機の開発
NECグループのウェブアクセシビリティへの取り組み

NECのソーシャルバリューデザインの取り組み

ソーシャルバリューデザインの全社推進活動



Vol.66 No.3
(2014年3月)

特集TOP